

令和 5 年 6 月 30 日現在

機関番号：23803

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K17430

研究課題名（和文）インド人看護師臨床教育支援プログラムの開発と日印看護師の協調的臨床環境の構築

研究課題名（英文）Development of a Clinical Education Support Program for Indian Nurses and Creation of a Collaborative Clinical Environment for Japanese and Indian Nurses

研究代表者

根岸 まゆみ（Negishi, Mayumi）

静岡県立大学・看護学部・講師

研究者番号：40816352

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は日印看護師間における看護や教育・臨床環境に関する状況的認知の比較を明らかにすることで、日印看護師の相互文化理解を深め、日印の看護師が求める臨床教育支援プログラムの開発と協調的臨床環境の構築に発展させ、今後の日本人看護師派遣の促進に繋げることが目的である。5年間の研究期間において3年間はCovid-19パンデミックの影響によりインドへの入国禁止など研究実施が困難であった。2022年度にインドへの入国規制が緩和され、2023年3月までに目的とを達成することができた。今後開発する臨床教育支援プログラムの実践と評価を次の研究に繋げることで本研究の目的の達成に貢献すると考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでに、日印看護師の望ましい看護や臨床教育・協調的臨床環境に関する状況的認知の比較研究は行われていない。従って、本研究は国際看護学の視点から独創的かつ学術的に高い意味を持つと考える。これらを明らかにすることにより、1)日印看護師の相互文化理解を深め、2)双方のニーズに基づいた臨床教育支援と協調的臨床環境を構築し、3)求められる「インド人看護師臨床教育支援」と日印看護師たちのための臨床環境を構築し情報発信していくことで、継続支援のための日本人看護師派遣の促進を目指す。よって本研究は社会的・国際的に大きな意味を持つと考える。

研究成果の概要（英文）：The purposes of this study are to deepen mutual cultural understanding between Japanese and Indian nurses, develop a clinical education support program and cooperative clinical environment that Japanese and Indian nurses seek, and promote the dispatch of Japanese nurses in the future by clarifying comparative situational perceptions of nursing, education, and clinical environment between Japanese and Indian nurses. During the five-year research period, for three years it was difficult to conduct the research due to the Covid-19 pandemic and the ban on entry into India. In 2022, the restrictions on entry into India were relaxed, and the study purposes and were achieved by March 2023. It is believed that the implementation and evaluation of the clinical education support program to be developed in the future will contribute to the achievement of this study purpose by connecting it to the next research.

研究分野：国際看護

キーワード：国際看護 臨床教育支援 日印看護師 協調的臨床環境 Global health nursing

1. 研究開始当初の背景

国際的に、医療における健康格差は常なる課題であり、格差改善に向けて我が国では国・民間レベルで様々な国際医療保健における貢献をしてきた。2015年に国連が設定した2030年までの持続可能な開発目標(SDGs)では、健康格差の改善の指針として17の目標が設定された¹。貧困・飢餓の撲滅、質の良い教育の提供、医療と福祉の充実、環境保全などの目標と共に、第17番目の目標は民間企業や市民社会も参加する開発のためのグローバルなパートナーシップの推進である¹。

その民間企業が参加した国際医療保健への貢献例として、近年では2014年6月にセコム医療システム株式会社と豊田通商株式会社により、インド初の日本式総合病院(294床)を開院した。これは、国際協力銀行による初めての医療事業への協力により実現した官民連携によるインド現法に対する医療格差改善・開発のための国際事業である²。日本の国家である桜と、インドのサンスクリット語であるSakra(The Ruler of Heavenの意)を由来とするサクラ・ワールド病院はインド南西にあるカルナータカ州の州都バンガロールに建てられ、6つのコアセンター(脳神経センター、心臓センター、消化器センター、整形外科、腎・泌尿器、女性・小児)があり17の診療科をもつ³。ここでは日本人看護師たちが「最善の医療サービスで患者様のよりよい生活をサポートする」使命を持ち、現地のインド人看護師の文化や宗教を尊重しつつ、彼らと連携し医療・看護の質向上に貢献してきた²。

インドでは人口の約8割がヒンズー教、1.5割がイスラム教の多民族多言語の文化であり国民間の格差も大きく、社会的身分制度のカーストが根強く残る地域も多い⁴。看護師は職業特性上異性との身体的接触や汚物の世話が有り、いまだに汚れた仕事との偏見も大きい^{5,6}。インドは先進国の医療支援対象国であり、我国も独立行政法人国際協力機構(JICA)がインドの看護教育の質向上に貢献するべく1966年から現在まで看護師派遣を行っている⁷。本研究の対象施設であるサクラ・ワールド病院に派遣されてきた4名の日本人看護師たちは、日印看護師間における看護や教育・臨床環境の差の中で指導する難しさについて述べている²。

2. 研究の目的

近年インドでは、日本企業が国際銀行の協力のもと初の日本式総合病院(サクラ・ワールド病院)を開院し、2017年までに4名の日本人看護師を派遣してきた⁸。当該病院で臨床上の教育支援を行ってきた日本人看護師たちは、相互の文化を尊重しつつ指導する難しさを述べていた²。これまでに、日印看護師間における看護や教育・臨床環境に関する状況的認知の比較は研究されていない。本研究でそれらを明らかにすることで、①日印看護師の相互文化理解を深め、②日印の看護師が求める臨床教育支援プログラムの開発と協調的臨床環境の構築に発展させ、③今後の日本人看護師派遣の促進に繋げることを目的とした。

3. 研究の方法

日本人看護師3名とインド人看護師27名の合計30名に、望ましい看護・臨床教育・協調的臨床環境についてインタビューを実施した。当時、日本人看護師1名は研究対象医療機関に就業していた。そこで、日本で聞き取りを実施した日本人看護師2名にインドのバンガロール

へ同行していただき、インド人看護師へのグループインタビュー後に、日印看護師参加のもと、日印看護師の求める臨床教育支援プログラム開発と協調的臨床環境の構築について討議した。Covid-19 パンデミックの影響により研究実施が遅延したことで、臨床教育支援プログラムの実施と評価へは至らなかった。

4. 研究成果

臨床教育支援プログラムにおいては、多文化共生に対する教育支援の継続やケアの質向上にむけた取り組みの継続と支援の充実、さらに、臨床の看護研究を含む学術的教育支援のニーズが明らかになった。これらを実現することで、協調的臨床環境が構築できる可能性がある。今後、この臨床教育支援プログラムの実施・評価を行い、本研究の目的③の達成につなげる予定である。

引用・参考文献

1. 国連開発計画 駐日代表事務所. (n. d.). 持続可能な開発目標. (SDGs).
<http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/sdg/post-2015-development-agenda.html>.
2. 時事通信. (2017). 「患者第一」の精神伝える=日本人看護師、インドで奮闘. 8月6日記載. <http://jijiweb.jiji.com/apps3/do/contents/clippingsearchexec/f1b84fb8015c541897a95f2b146f7e53?clipnum=1>
3. 安井はるみ. (2017). 医療安全国内外の動向代 39 回: 日本企業がインドで日本式の医療安全を展開する 意義. 患者安全推進ジャーナル, (49), 67-70.
4. The Central Intelligence Agency. (2017). The World Factbook: South Asia, India.
<https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/in.html>
5. シバ・マリヤム・ジョージ著, 伊藤ゆり監訳. (2011). 女が先に移り住むとき- 在米インド人看護師の トランスナショナルな生活世界. 有信堂
6. Evans, C., Razia, R., & Cook, E. (2013). Building nurse education capacity in India: Insights from a faculty development programme in Andhra Pradesh. *BioMed Central Nursing*, 12:8.
7. JICA. (2017). ボランティア.
<https://www.jica.go.jp/india/office/activities/volunteer.html>
8. 松下剛. (2015). 豊田通商、インド発、官民連携で海を渡る日本のおもてなし医療:Sakura World Hospital の挑戦. *Japan Institute for Overseas Investment*, (7), 8-9.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Gubrud-Howe Paula	4. 巻 25
2. 論文標題 Differences in Clinical Practicum Experience between United States and Japanese Baccalaureate Nursing Students	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪府立大学看護学雑誌	6. 最初と最後の頁 21-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 長野弥生, 細田泰子, 片山由加里, 土肥美子, 北島洋子, 根岸まゆみ	4. 巻 25
2. 論文標題 教育指導者が行う新人看護師と看護学生への学習支援の共通性と差異	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪府立大学看護学雑誌	6. 最初と最後の頁 33-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Yasuko Hosoda, Yayoi Nagano, Yukari Katayama, Yoshiko Doi, Mayumi Negishi, Yoko Kitajima
2. 発表標題 Effects of experiential learning and nursing competency of educational instructors on the clinical learning environment
3. 学会等名 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長野弥生, 細田泰子, 片山由加里, 土肥美子, 北島洋子, 根岸まゆみ
2. 発表標題 教育指導者が行う新人看護師と看護学生への学習支援に共通する構成要素
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------